

日本大学 農獣医学部 校友会会報

第47号



《目 次》

平成6年度総会と懇親会……………	2	工学会（農業工学科）……………	12
農獣医学部校友会会長賞を新設……………	2	F T会（食品工学科）……………	13
山形県支部を承認……………	2	拓友会（拓植学科）……………	14
平成6年度学部執行部……………	3	むつあい会（短期大学部農学科）……………	15
台湾訪問記（茂澤杲）……………	4	生活環境学科校友会	
農学校校友会（農学科）……………	5	（短期大学部生活環境学科）……………	16
紫友会（農芸化学科）……………	6	応用生物科学科校友会	
角笛会（獣医学科）……………	7	（応用生物科学科）……………	17
満喜葉会（畜産学科）……………	8	支部だより……………	18
いもづる会（食品経済学科）……………	9	日本大学農獣医学部校友会役員……………	19
林学科校友会（林学科）……………	10	校友通信コーナー……………	20
桜水会（水産学科）……………	11		

盛大に平成6年度総会と懇親会



東京・新宿のホテル・センチュリーハイアット「白鳳の間」で開かれた平成6年度総会

平成6年度の総会・懇親会は慣例にしたがい、7月の第二土曜日の平成6年7月9日に開催された。

総会は15時より東京新宿ホテルセンチュリーハイアット「白鳳の間」で木村事務局長の開会宣言に始まり、前台湾支部長故葉澤波氏に対する黙祷、茂澤会長挨拶、ついで議長に茂澤会長が選ばれた。

議事に入り、平成5年度経過報告で会員総数63,746名、準会員数7,840名等が報告された。平成5年会計決算の総額は39,372,623円で山根会計監事より監査報告があり承認された。平成6年度の予算額は36,372,759円で総会・懇親会、会報発行、名簿発行準備

等の継続事業の他、新たに農獣医学部校友会会長賞が創設された。支部関連では山形県支部設立が承認された。

今回、台湾支部より林義謙支部長が参加され、高齢化した台湾支部のために留学生受け入れ配慮の切なる要望は参加者を感動させた。

懇親会は「平安の間」に会場を移し、70名の来賓と120余名の会員を迎え茂澤会長の挨拶の後、来賓・副総長瀬在幸安氏ならびに出口吉昭学務担当よりご祝辞を頂戴した。久木田賢志先生（前学部長・元副総長）の乾杯のご発声で懇談に移った。会のなかば



「平安の間」で開かれた懇親会



謝辞を述べる林義謙台湾支部長

海外よりわざわざ参加された林義謙台湾支部長に茂澤会長より記念品が贈られた。会は例年になく賑やかな内に進化した。最後に富澤・日比野・山下の三副会長により参加者への御礼、万歳三唱など、明年の再会を祈念しつつ閉会した。

農獣医学部校友会会長賞を新設

農獣医学部校友会会長賞の概要は、農獣医学部校友会会員および準会員が学術・文化ならびに体育分野のほか、社会活動において顕著な功績を挙げたものに対して賞するものである。分会長・支部長ならびに部会長は、候補者の推薦書、履歴書ならびに功績を証明する関係書類を選考委員会に提出し、選考の後、理事会の議をへて会長が決定する。

本賞に関する情報をお持ちの方は分会長・支部長・部会長までお知らせください。

山形県支部の承認

平成3年山形県在住の校友55名が集まり、第1回懇親会を開催し活動を開始した。支部の承認を得るため、昭33年農学卒足達勇氏が今回の総会に出席し、設立経過を説明、支部として承認された。



学部執行部

平成6年10月現在の学部執行部は、学部長・門田定美教授、事務局長・姫野貞義参事、学務担当・出口吉昭教授、学生担当・石井賢治教授、研究担当・勝部泰次教授、企画・広報担当・廣田才之教授、就職指導担当・山根勝次教授、事務局次長・山内二夫参事、事務長・大沼宏三郎参事、事務長（藤沢校舎担当）・渡辺光男参事、経理長・菊地昭福参事が活躍されている。新しく任命された執行部はつぎのとおりである。



【事務局長】

姫野貞義（64歳）参事。日本大学工学部機械科卒。



【研究担当】

勝部泰次（64歳）教授。東京大学大学院生物系研究科修了。担当科目は獣医公衆衛生学。



【企画・広報担当】

廣田才之（69歳）教授。日本大学農獣医学部農学科卒。担当科目は化学。



【就職指導担当】

山根勝次（68歳）教授。日本大学農学部農業経済学科卒。担当科目は会計学。



【事務局次長】

山内二夫（57歳）日本大学農獣医学部農業経済学科卒。



【事務長】

大沼宏三郎（61歳）参事。日本大学法学部法律学科卒。

校友に期待される就職活動支援

マスコミで賑わせているように今年も就職は難関



となった。求人企業数も昨年は1万3千社、本年は1万社で3千社の減少となった。このため就職指導課では女子学生就職特別ガイダンスを

開催し、さらに来年より年間を通じて公務員・教員就職対策講座を開設することにした。また山根就職指導担当は今後の就職対策のために、約7万人校友のお力添えをより必要とする時代が到来したと述べている。

門田名誉校友会長、普賢岳安山岩を寄贈

林学科及び水産学科の授業校舎の移転（東京より藤沢）に伴い、平成3年12月1日両学科用10号館が藤沢キャンパスに建設された。ちょうどこれと時を同じくして普賢岳が噴火した。この様子は長崎県民をはじめ、全国民に自然災害と人間生活との関わりとして全国にテレビ・新聞などを通じて報道された。

門田定美農獣医学部長は自然災害の権威である林学科の難波宣士教授を訪れ、普賢岳の安山岩をキャンパス内に展示して私達の記憶に長く留めると共に、学生の教育に資することを提言した。早速難波教授

台湾訪問記

日本大学農獣医学部校友会

会長 茂澤 杲



平成6年5月21日(土)午前10時より、日本大学農獣医学部校友会台湾支部(台北市日本大学校友会農獣医学部分会)総会と午後12時から社団法人 台北市日本大学校友会総会を来来大飯店で開催し、引続き懇親会を催すとのご鄭重な招請を林義謙台湾支部長より戴き、木村貞司事務局長と出席しました。

席上、全員で故葉澤波農獣医学部校友会前支部長と(株)台北市日本大学校友会故朱盛淇理事長ほか、故人となられた会員に黙祷を捧げました。そのご総会が蔡桔来幹事長司会で始まり、まず新任の林義謙支部長より、心のこもった歓迎のご挨拶を戴き、特に、日本での留学生の活動について、校友会としても一層のご指導ご援助をお願いしたい旨の要望がありました。また、(株)台北市日本大学校友会張武雄台湾代理支部長からも同様あたたかい歓迎のお言葉を戴きました。続いて、私の祝辞に入り、これまでの台湾支部のご発展ご活躍に対し、諸先輩ならびに会員の校友会に寄せるご尽力とご努力について深甚なる敬意と謝意を表しました。そして校友会に課せられた役割として、尊大な不言実行より、謙虚な有言実行が校友会にふさわしく、国際貢献

に向けて留学生をバックアップし、若い有為な人材を一人でも多く育てる手助として、各分会でも独自に奨学金制度を設立し、既に運用している旨を話しました。また、諸課題について二三の例をあげ、母校と校友のために真摯に取り組んでゆくことを表明しました。次に、木村貞司事務局長からも校友会の近況を詳細に報告され、更に将来に大きな夢をもち、それを実現する可能性をもった準会員が安心して勉学出来るよう精一杯努力してゆくと話されました。総会終了後、懇親会に移り宴酣ともなれば談論風発し一同和気藹々のうちに閉会しました。翌日、役員各位のご協力により、故朱盛淇理事長、故葉澤波理事のご両家を弔問し、謹んでご冥福をお祈りしてまいりました。

台湾支部訪問を通して感じたことは支部の皆様が第2の故郷である日本を愛し、日本大学の校友であることを誇りとし、自国の繁栄に寄与され、且強力に団結されていることでした。

終わりに、林義謙支部長はじめ、役員の皆様から誠心誠意ご接待を得たことを深謝申し上げ、台湾支部のさらなるご発展とご活躍をお祈りして、台湾訪問のご報告といたします。

の計いでこのことを伝え聞いた長崎県をはじめ、多くの方々からもこの計画に賛同と多大の協力を得るところとなり、平成6年4月17日6個の普賢岳安山岩(最大1.5m×1.2m)を藤沢キャンパス内に展示することとなった。(表紙右下写真参照)

なお、この計画は門田教授が農獣医学部長就任7年目を記念して進められたもので、門田先生のご芳志により寄贈されたものである。

—故柴田勝治氏の日本大学葬—

柴田勝治氏(日本大学校友会会長・日本大学名誉理事長)は病氣療養中のところ、8月20日(土)薬石効なく逝去されました。享年83歳。

葬儀は、日本大学葬として、さる9月16日東京・青山葬儀所にて厳かに執りおこなわれました。

柴田先生は、長年にわたり日本大学の内外の、要職にあって大いに貢献されました在りし日を偲び、謹んでご冥福を祈ります。

表紙写真の説明(左より右へ) 学生サークル棟「ステューデント ユニオン ビルディング」内庭より望むシンボルタワー、外観、名誉会長寄贈普賢岳安山石(3頁右下記事参照)

農 学 校 友 会

◇農学科◇

連絡先 花卉園芸学研究室
0466-81-6241 (内2101) 米田 和夫

農学校友会創立40周年記念祝賀会

農学校友会創立40周年記念祝賀会が平成5年10月16日(土)、藤沢校舎で盛大かつ和やかに実施されました。当日は学部校友会茂沢会長はじめ門田学部長を来賓としてお迎えし、校友多数出席のもと会の発展にご尽力された蒲原元教授への記念品贈呈などがあり、祝宴に入りました。卒業後はじめてという校友は大学周辺を含めた藤沢校舎の変わりように感嘆され、学生時代を懐かしく話されているのが印象的でした。



祝賀会で挨拶される農学校友会西島羽会長

農学科収穫祭健在

午前中にスポーツ大会、午後は農産物試食会の内容で継続しています。家族でおいでになり実行委員の手料理を試食され、学生の輪の中に入って一緒に“イッキイッキ”と、いい雰囲気です。10有余年間。毎年勤労感謝の日の一週前の日曜日を予定しています。

校友の皆さん、是非、お出かけください。



オープニングセレモニー“もちつき”を楽しまれる門田学部長とお孫さん

理事の増員

若い年代の校友からの意見も、と言うことで平成5年度の総会で理事の増員が承認され、第37期市川靖氏と第45期中庭政之氏の2名が理事会の構成員になりました。

農学科の現状

本年3月、農学科48期生146名を社会へ送り出し、代わりに新入生131名を迎えました。5月1日現在の学生数は670名で、うち女子が239名、36%を占めるに至りました。学科教員大重です。

平成4年3月農学科46期生として卒業された立石亮氏が本年3月、名古屋大学院農学専攻を修了し、4月より助手として果樹蔬菜園芸学研究室に所属することになりました。

学科の動静として本年4月より石井賢治教授が学生担当に。高橋文次郎教授が短大農学科長に引き続き就任されています。また、新たに坪木良雄教授が農場長に就任され、学科主任と兼務されることになりました。なお、昨年、日大海外長期派遣研究員として、アメリカのミネソタ大学に行っておられた岩野秀俊専任講師が1年間の研修を終えられてこの3月帰国し、4月よりその成果を教育に反映されています。また、勝野武彦教授が日大中期派遣研究員として4月より10月までの半年間、ドイツのミュンヘンへ出張されています。

長年、農学科としても懸案であった新しい農場本部棟は現在着々と計画が進められ、来年度にははずばらしい装いで誕生する予定になっています。

最後に校友の皆様への切なるお願いですが来春3月卒業予定の4年生の就職は大変苦勞致しております。どうか暖かいご援助とご協力をお願い申し上げます。

事務局からのお願い

名簿の表紙を飾っているキャンドルの灯を明るくする係として会費等に関しては野村(内線2105)名簿等に関しては葉山(内線2108)が担当しています。

会の運営を円滑にし、校友の皆様との連絡が途絶えないためにも住所変更等の際には、ご面倒でも事務局までご連絡下さい。お願い致します。

(藤井 秀昭)

紫 友 会

◇農芸化学科◇

連絡先 植物栄養生理学研究室
03-3421-8121 (内 338) 長谷川 功

平成5年度紫友会総会、 懇親会を開催

平成5年度紫友会総会が平成5年11月12日、東京ガーデンパレスで開催された。例年土曜日の午後開催されていた総会、懇親会が、諸般の事情により本年は金曜日の夕刻に行われたが、多数の来賓ならびに会員の方々が出席され、盛大な会となった。

40周年記念行事を計画

紫友会は本年をもって発足40周年を迎える。その記念行事が11月12日に行われる。思い出に残る行事を行うべく、様々な案が検討された。その結果、当日は東京湾クルージングと銘打ち、船上での記念式典およびパーティを行うこととなった。東京湾を遊覧する船上での祝賀会という画期的な催しには、各方面からの来賓の方々を含め、大勢の会員の参加が見込まれる。

紫友会奨学金制度発足

前号でお知らせしたように、紫友会40周年記念事業としての紫友会奨学金制度が本年度より発足した。これは毎年度、学業成績、人物ともに優秀な学生を、農芸化学科2、3、4年次在学生から各3名、大学院農芸化学専攻博士前期課程1年次在学生から



1名選考し、各人に年額7万円を給付するものである。これを機に、学生諸君にはより一層勉学に励ま

れたい。

記念すべき初年度の栄誉は、2年次の長島裕高、杉田由紀子、石井圭、3年次の彌永由利子、鎌田由紀子、柴崎利恵、4年次の原尻康子、大森知佳、藤倉勉、大学院1年次の寺田恵実子の諸君が獲得した。

農芸化学科の近況

人 事

伊藤定一郎教授(生物有機化学) 本年3月をもって定年退職された。伊藤先生は明治製菓中央研究所を退職された後、本学の非常勤講師として4年間、その後教授として5年間にわたり研究・教育にご尽力下さった。

4月1日付で、野口章助手(植物栄養生理学研究室)が着任された。野口先生は、本学農芸化学科を昭和59年に卒業され、宇都宮大学大学院修士課程、東京農工大学連合大学院博士課程を修了された後、本年3月までJICA専門家としてフィリピン農業省土壌研究開発センターで活躍されていた。

同じく4月1日付で、熊谷日登美先生(食品化学)および西尾俊幸先生(生物有機化学)が専任講師に昇格された。ここにお祝い申し上げるとともに、これからの御活躍を期待する。

留 学

関泰一郎専任講師(栄養生理化学) 7月から1年間の予定で、米国ミシガン大学医学部のトーマスD. ジェレーター教授のもとに留学された。くれぐれも健康に留意され、ますます活躍されることをお祈りする。

大石邦夫教授(微生物化学) 米国ベックマンリサーチ研究所への半年間の留学を終えられ、7月9日に帰国された。

学位の授与

隅田裕明専任講師(土壌学) 『有機性廃棄物コンポストの施用が土壌環境におよぼす影響』の研究により、日本大学から博士(農学)の学位を授与された。

(野口章、熊谷日登美、西尾俊幸)

角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先 獣医臨床繁殖学研究室
0466-81-6241 (内2123) 津曲 茂久

角笛会総会を開催

平成6年度の角笛会総会が、さる4月23日(土)日本大学会館で開催された。総会では、まず、物故会員に黙祷を捧げた後、日比野次郎会長のあいさつが行われた。平成5年度の事業報告・決算および平成6年度の事業計画・予算案等が慎重に審議され、承認された。

総会終了後、門田定美学部長をはじめ多数の来賓及び会員が出席して懇親会が盛大に行われた。

佐久間勇次教授・小出英興教授

定年により退職



佐久間勇次教授

佐久間勇次教授(生理学)が1月15日付で、また小出英興教授(放射線学)が3月31日付で定年により退任された。

佐久間勇次教授は昭和36年、東北大学より本学に赴任され、この間、就職指導担当をはじめ多くの学部要職を歴任された。



小出 英興教授

小出英興教授は昭和57年、農水省家畜衛生試験場より本学教授に着任された。学外にあっては獣医事審議会特別委員を務められてい

獣医学科の近況

勝部泰次教授(獣医公衆衛生学)は、平成6年3月21日付で学部執行部の研究担当に就任された。

●退職

斎藤寛史助手(獣医臨床病理学)・水野章子助手(医動物学)が、平成6年3月31日付で本学を退職された。

●新任

山谷吉樹助手(本学獣医学科卒)が獣医外科学研究室に、鯉江洋助手(本学獣医学科卒)が家畜病院に、甲賀美也子助手(本学農芸化学科卒)が医動物学研究室に、畦川奈都子助手(本学農芸化学科卒)が獣医生理学研究室に着任された。

家畜病院長に藤原教授

長尾壮七家畜病院長の任期満了に伴い、後任に藤原公策教授(獣医第二病理学)が発令された(平成6年3月21日付け)。

事務局長に津曲茂久助教授

平成6年度の角笛会総会において、長年にわたり事務局長を務められた月瀬東教授(40年卒、解剖学)の後任に津曲茂久助教授(49年卒、臨床繁殖学)が指名された。

日本大学獣医学会開かれる

昨年、東京獣医畜産学会から改称された日本大学獣医学会(日比野次郎会長)の総会と学術講演会(小暮規夫担当学会長)がさる6月19日(日)、静岡県熱海市のウオミサキホテルで開催された。総会では吉田仁夫総務委員長が欠員理事の補充として選出された。

懇親会には門田定美学部長も出席され盛会裡に終了した。

ワシントン州立大学で夏季臨床実習

本学の姉妹校であるワシントン州立大学(米国ワシントン州プルマン)における夏季臨床実習が7月25日から8月5日の日程で実施された。

月瀬東教授(解剖学)を団長に津曲茂久助教授(臨床繁殖学)、金山喜一専任講師(生理学)、雨森隆助手(第二内科学)の引率により5・6年次学生27名と卒業生1名の計28名が参加した・修了式には門田定美学部長も出席され、ワシントン州立大学のミス学長とともに参加学生一人一人に修了証を手渡された。

世界獣医学大会(横浜)において

本学藤沢キャンパスが視察コースに

世界獣医学協会(WVA)と世界小動物獣医師会(WSAVA)は1995年(平成7年)9月、横浜市において、世界獣医学大会(WVC)を合同で開催する。組織委員会からすでにプログラムが発表されているが、このなかに、教育機関の学術視察プログラムが組まれている。このコースの一つに本学藤沢キャンパスが予定されている。来年の初夏には藤沢校舎に家畜病院(延べ約1,300㎡)が竣工することになっており、新病院およびその施設などが大会出席者に披露される予定である。

(金山喜一)



連絡先 飼養学研究室
0466-81-6241 (内2136) 小牧 弘
◇畜産学科◇

記念誌発行など決める

平成6年度第1回役員会

平成6年5月22日13時より学部藤沢校舎第一会議室において木村会長以下理事12名 幹事14名が出席し、平成6年度第一回役員会が開催された。役員会は会長あいさつの後、会則に従って会長を議長とし、以下の議事・報告が行われた。

議事に先立ち発行の遅れていた満喜葉会会員名簿の完成および畜産学科学術研究部活動報告刊行とその補助に関する経過報告が小牧事務局長より行われた。

平成5年度経過報告、事務局宮原晃義氏より平成5年度事業および経過報告が行われた。

平成5年度会計報告、事務局泉水直人氏から一般会計決算報告、特別会計決算報告に続き会計監事井上貞夫氏より監査報告が行われ満場一致で承認された。

平成6年度事業計画、事務局宮原晃義氏より平成6年度事業計画案の説明があり承認された。

平成6年度予算、事務局泉水直人氏から一般会計予算案、特別会計予算案が提案され異議なく承認された。

満喜葉会50周年記念事業について審議された。

その結果、記念式典の挙行 懇親会の開催 会員名簿および50周年記念誌（追録等）の刊行を行うこ



とが決定した。なお、これら記念事業の準備委員会を発足することとした。

新入生歓迎会を開催

ソフトボールで心地よい汗

恒例となった新入生歓迎会が晴天の藤沢校舎グラウンドにおいて開催された。この歓迎会は畜産学科と満喜葉会の共催および畜産学科学術研究部の協力によって実施されており、本年は新準会員 151名を迎えてソフトボールが行われた。新入生に加え教員チーム、学術研究部チームを交えて熱戦が繰広げられた。ゲームの途中、柴田教授が肉離れになるといったアクシデントがあったものの皆心地よい汗をかいた。

その後、食堂棟において満喜葉会役員を交えた懇親会では、学科主任森地敏樹教授 木村満喜葉会会長の挨拶の後開宴し、優勝チームの表彰、個人賞の発表等が行われました。

受賞

満喜葉会特別会員の本学元教授 森本 宏先生は平成5年11月17日に行われた農業試験研究一世紀記念式典において農林水産大臣賞を受賞されました。本賞は今世紀、我が国の農林水産技術に関する優れた研究功績を挙げられた方々が表彰されるもので、先生の業績である「家畜・家禽飼養標準の設定及び仔牛・仔豚用人工乳の開発」が受賞対象とされております。

春の叙勲において動物生体機構学研究室元教授吉田重雄先生は勲三等旭日中綬章を受賞されました。本賞は先生の長年にわたる教育と研究業績に対して授与されたものです。

学科の近況

塩谷正勝先生（20期 生産環境学研究室） 泉水直人先生（23期 動物育種学研究室）が平成6年4月1日付けで助教授に昇任されました。

学位の授与

泉水直人先生は「妊娠泌乳マウス及びラットの乳腺機能とその内分泌支配」の研究で日本大学より博士（農学）の学位を授与されました。（丹羽 美次）

いもづる会

◇食品経済学科◇

連絡先 地域産業研究室

03-3421-8121 (内 373) 上野 恒雄

平成6年度総会・懇親会を開催

平成6年度のいもづる会総会・懇親会は、6月4日(土)三軒茶屋銀座アスターで開催された。総会では、昨年発足した「いもづる会終身会費運用検討委員会(別称:組織活性化検討委員会)」による答申の中間報告がおこなわれたが、今年度も引き続き村山副会長を委員長とする新たな委員会を組織し、組織活性化と基金運用に関する具体案をまとめることとなった。いもづる会は正会員が6000名を越え、組織はますます巨大化する方向にあるが、一方、会員数の増加に対してその組織活動は近年むしろ停滞する傾向にある。こうした現状を踏まえ、検討委員会では今後のいもづる会の運営について大幅な改革を含む提言をまとめつつあるが、会員の一部には消極論もあり、活性化が実現できるか否かはひとえに会員一人一人の参加意欲にかかっている。

平成6年度総会(東京・三軒茶屋の銀座アスター)



総会後懇親会に移ったが、懇親会では冒頭三木会長、富沢学部交友会副会長(会長代理)、門田学部長がそれぞれ挨拶、祝辞を述べられた。門田学部長はとくに、今後の農獣医学部のすすむべき方向、藤沢校舎への移転問題と新キャンパスの建設、六会駅の駅名変更、学部の教育問題について、かなりの長時間に亘って踏みこんだ話しをされた。農獣医学部は現在、藤沢キャンパスへの移転途上にあり、建設途上にある藤沢キャンパスには今後動物ランド・植物ランドを含む新しい教育・研究施設が整備されること、それに伴って現在の六会駅を新しい駅名に変更すべく目下関係機関と折衝中であることなどに触れ、最後に最近農獣医学部の教育が停滞していることに対して深い憂慮の念を示された。懇親会は、多数の参加者を得て和やかな雰囲気の中に閉会した。

なごやかな懇親会



就職懇談会・セミナーを開催

今年度は初めての試みとして、就職セミナーの前に企業の人事担当者と学科教員による懇談会を開催した。こうした試みが実施されることになったのは、長引く不況や採用枠の削減で厳しい雇用環境におかれている最近の就職事情を知り、学生の就職問題や最近の労働市場の変化について、企業側と率直に意見を交換し、今後の就職問題への対応や学生指導の参考にするためである。戦後最悪といわれる厳しい雇用環境のなかで、40社を越える企業の参加が得られ、昼食を共にしながら率直に意見を交換することができたことは大変有意義であった。懇談会終了後、大講堂において企業の人事担当者(OBを含む)と学生の個別面談がおこなわれたが、就職不況を反映して500名を越える学生が参加し、企業側も対応に追われていた。なお、就職懇談会・セミナーにはいもづる会を代表して三木会長、村山、千田両副副会長の三名が同席された。

<学科の動き>

島津・鈴木・来米三教授が退職

学科草創期から長年にわたって食品経済学科の発展に力を尽くしてこられた島津 正教授、来米速水教授ならびに昭和5年4月から当学科の教授として食品経済学の確立に大きな力を発揮された鈴木福松教授が相次いで定年退職された。来米教授は9月14日をもって退職されたが、これまで学科の大黒柱となって学科を支えてこられた先生方だけに、定年とはいえ一抹の寂しさをおぼえる。三教授の退職に伴い、今後担当科目の変更や補充人事がおこなわれるなど学科の人的構成に若干の変化が生じることが予想される。受験人口激減期を迎えて、学部も学科も大きな変化を余儀なくされているが、こうした変化の時代に即応して、学科がより一層充実・発展することを期待したい。(下渡敏治)

林学科校友会

◇林学科◇

連絡先 木材科学・工学研究室
0466-81-6241 (内2146) 濱本 和敏

林学科に大学院（博士後期課程）設置される

博士前期課程に続き本年4月に大学院博士後期課程（森林科学専攻）が設置され、前期、後期課程をあわせ5年間の大学院教育が完成し、若き研究者をわが学科から社会に送り出すことができます。現在博士後期課程学生1名、前期課程学生16名（うち台湾からの留学生1名）が在籍し将来の森林研究者を目指し勉学に励んでおります。

前期課程では緑地生態学、緑地環境保全学、森林資源生産学、林業経済学、森林資源利用学の5分野が、後期課程では森林資源生産学・生態学、緑地環境保全学、林業経済学、森林資源利用学の4分野と研究体制も整い教員とともに日々切磋琢磨しております。

学科の近況

林学科の藤沢校舎移転も本年度3月には終了し、来年度4月からは全学年藤沢校舎にそろふこととなります。学科の所在場所が三軒茶屋ではなく、六会になり多少遠距離とはなりますが、上京された折にでもぜひ立ち寄って新校舎を見学してください。

学科教員の移動では、平成6年3月に木材科学・工学研究室的樋口隆昌教授が退職され、10月には住宅・流通研究室の野村 勇教授が、来年3月には森林動物学研究室の山田房男教授が定年退職、また来年3月には林学科資料室で学科全体の事務を引き受けて頂いていた黒崎浩代副手も退職されます。なお、樋口先生と野村先生の後任として4月より東京大学元教授の石津 敦先生が、10月より（財）林政総合調査研究所の田中純一先生が来られ、学生の指導にあたっておられます。

また、水上演習林で演習林の運営と学生の実習等のお世話をしていた坂本愛三郎氏が本年5月に定年退職されました。

校友所有の森林で林業経営学実習を実施

平成6年8月29～9月2日（四泊五日）にかけて昭和44年卒の校友田中惣次氏所有の山林（東京都檜原村）で3年生（20名）の林業経営学実習が野村、佐々木、塩沢、海老原各先生の指導のもと行われた。教員、学生とも田中氏経営の「コテージ」で自炊をしながら実習を行い汗を流した。このような実習は

はじめての試みであり、教員・先輩との親睦を深め充実した日をおくった。実習地の提供に対して田中氏に深謝します。



平成5年度校友会会長賞受賞者

平成5年度の校友会会長賞に下記の6名が決定しました。

森林・緑地造成ゼミ：高木雅康（ニュージャパコンサル(株)）、林業経営ゼミ：中楯博一（岡谷市役所）、木材科学・工学ゼミ：梶山万基子（藤造園建設(株)）、住宅・流通ゼミ：永井芳郎（東京大学大学院）、森林保護・風致ゼミ：中村兼吉（東洋工学専門学校）、林地・保全ゼミ：白銀直美（(株)爽環境計画）

学部運動会で8連勝

前年度に引き続き本年度も学部主催の運動会（5月28日）で優勝の栄誉に輝きました。今回で運動会も8連勝となり、学部学生に対してのアピールにおいても役立つとともに学生の団結と志気の向上にも役立っております。

平成6年度新入生歓迎会

林学科新入生歓迎会が学部運動会終了後、学生食堂で校友会会長鹿野氏を迎え行われた。当日は運動会の優勝と重なり、おおいに盛り上がりました。

厳しさを増す就職戦線

景気の低迷により学生の就職戦線に異変が起きています。この傾向は次年度も継続するのではないかと予測されております。校友諸氏の暖かい支援をお願いするとともに、就職に対する情報の提供を事務局までお知らせください。

本年度で東京校舎最後

平成7年3月25日卒業式の日を限りに長年続いた東京校舎の教育研究が終わりになります。4年生は東京最後の記念すべき年のためか今まで以上に張り切っています。このような年の卒業パーティーに出席し語り合いませんか。費用は例年どおり2万円、場所は高輪プリンスホテルです。参加希望の校友は4年生担任の本江までお問合せください。（石垣逸朗）

桜水会

◇水産学科◇

連絡先 漁業生産学研究室

0466-81-6241 (内2170) 余座 和征

平成6年夏は全国的に「米」の収穫は良好である。反面、水不足がもたらした影響は、生きとし生けるものすべてにマイナスの結果をもたらした。近代社会が如何にもろいものであるか、自然の威力に対し、我々人類の生き方、考え方を見直さない限り同じ事が起こり得るのではないか。これは水生生物の漁獲、養殖、加工の全てにあてはまるものであり、心したいものである。

◆水産学科、藤沢校舎へ完全移転◆

平成7年3月には(創立以来東京校舎を中心に思い出を心に刻み卒業された皆様ですが)、教育研究活動の全てが藤沢校舎(10号館)に移転します。これは水産学科の第2の出発点すなわち、大きな節目となるものであり、新生学科として、時代に流されることなく、特色あるものにしてゆきたいという考えでありますので卒業生の皆様のご指導ご協力を賜り発展の礎となるよう期待するものである。

◆各研究室スタッフ紹介◆

○水産生物学研究室(10号館3階)

東 禎三教授・廣瀬一美助教授・小橋二夫専任講師・朝比奈 潔専任講師

○水産増殖研究室(10号館3階)

出口吉昭教授・杉田治男助教授、青野英司副手(平成6年4月より新任)

○水産生物化学研究室(10号館3階)

西出英一教授・安齊 寛専任講師

○水産分子生物学研究室(10号館3階)

内田直行教授

○利用学研究室(10号館3階)

望月 篤教授・松宮政弘専任講師

○漁業生産学研究室(10号館04階)

添田秀男教授・余産和征助教授・小島隆人専任講師

○海洋学研究室(10号館4階)

門田定美教授・広海十郎専任講師・服部洋子副手

○資源情報学研究室(10号館4階)

四之宮 博教授・吉原喜好助教授・嶋村哲也助教

授・寺内 誠助教授

研究室の教員数は殆ど変化致しませんが、大学院生が多数入学していることは、大学のためにも極めて慶ばしいことで、研究の環境作りをすることも学生の教育研究のレベルアップにつながり、大学の仕事のひとつと考え努力したいものである。

◆学部長賞受賞にエールを◆

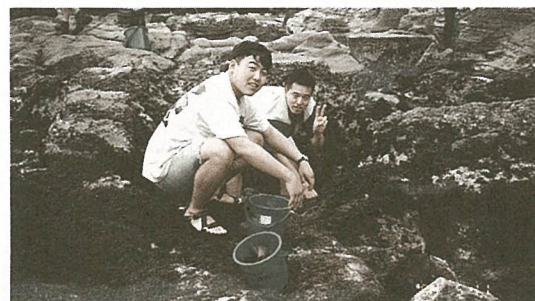
加藤 登氏(昭和45年3月卒業)・紀文研究所所員は日本水産学会から平成5年度技術賞も受賞され社会的にその業績が認められた。そのテーマ「魚肉の塩ずり原理と攪拌機の開発に関する研究」更に日本大学農獣医学部からも学部長賞と重ねての受賞である。桜水会としてこころよりお祝い申しあげる。

◆桜水会事務局より◆

○桜水会総会が平成6年6月25日(土)藤沢校舎で60名余の出席者で開催され、懇親会・十号館見学となごやかな時間がもたれました。今後も多数の出席を期待する次第です。



藤沢校舎で懇親会



磯採集の一コマ・楽しいな!!

○会員の皆様で会費未納の方はお納めくださる様お願い申し上げます。未納者は校友会報など送付しないことに決定されましたので、未納の方をご存知でしたらお納め下さる様お伝え下さることをお願い申し上げます。
(廣瀬一美)

工 学 会

◇農業工学科◇

連絡先 生物生産機械学研究室
0466-81-6241 (内2181) 世良田和寛

OBによる就職懇談会開催

不景気となり、学生は就職活動に費やす時間が多くなっているなかで、少しでも後輩たちの役に立てばと、OBによる就職懇談会が平成6年5月18日13時から、藤沢校舎本館4階の第1講義室にて行われた。村田（中央開発：S41卒）、金谷（農用地整備公団：S55卒）、内田（神奈川県警：S55卒）、宮下（鎌倉市役所：S57卒）、谷口（小松ゼノア：S61卒）、山原（プリマハム：S62卒）、米山（岳南建設：S62卒）、工藤（東京消防庁：S62卒）、加古（神奈川県庁：H2卒）、北川（横浜日産モータ：H2卒）の各氏がこの会に参加、講演していただいた。当日参加できなかったOBは人事部の人を講演させるご高配もあった。先輩方の惜しみないご協力に感謝する次第であります。懇談会は就職活動における注意点、面接時の留意点から始まり、公務員受験希望者には2次試験の対策まで、民間希望者には会社の社歴、業務内容、勤務時間、勤務地から始まり、現在の心おきない心境までお話いただいた。懇談会は先輩達の余談を入れた講演が効を奏し盛況の中で終わりを迎えた。このあと、懇親会が食堂棟3階で行われ懇談会で聞きそびれた内容を質問している様子が会場のあちこちで見うけられた。

理事会・役員会開催される

平成6年6月16日14時より、東京校舎第1会議室にて理事会・役員会が開催された。平成5年度の一般経過報告、30周年記念事業報告のあと、決算報告、監査報告が行われ満場一致で承認された。続いて、平成6年度事業計画、予算案の審議が行われ承認された。このあと、食堂において功労者祝賀会が行われた。会は開会の辞、会長挨拶と続いたあと、表彰式が行われ、(相談役に退いた)一川宏也前会長、辻厚志前事務局長に表彰と記念メダルの授与が行われた。長年、工学会の発展にご尽力いただいた両先輩に対し心より感謝するものであります。今後ともご指導、ご鞭撻よろしく願いいたします。表彰式の

後、乾杯、懇談へと移りましたが終始、和気藹々とした中で会は終了した。なお、すでにご存じだとは思いますが、現在、相談役は八木茂、一川宏也、辻厚志の3氏で、白岩隆己先生は名誉会員となっています。



功労者祝賀会での表彰式

学 科 人 事

平成5年10月より、青木志郎教授の後任として岡本雅美教授が着任されました。先生は現在、農水省灌漑排水審議会部会委員、農村計画学会理事として内外の学術振興と発展に努めておられる方であります。今後の益々のご活躍を期待しております。



また、青木志郎教授（建築・農村計画研究室）が平成5年12月24日をもって退職されました。長い間ご苦労さまでした。今後とも健康でのご活躍されますようお祈りいたします。（川西啓文）

事務局より

《お詫び》 先号（第46号）で報告した新理事（第4代）の名簿に一部間違いがありました。松田隆宣（昭和46年卒）の替わりに新藤薫（昭和43年卒）と馬目雄一（昭和51年卒）の追加をお願いいたします。訂正とお詫びを申し上げます。

《報告》 事務局の川西先生が本年7月に開催された農業施設学会年次大会において、農業施設学会奨励賞を受賞されました。畜体からの放散潜熱量に関する諸要因についての一連の研究が高く評価されたものであります。おめでとうございます。今後とも一層のご活躍を期待しております。



◇食品工学科◇

連絡先 畜産製造実習所
03-3421-8121 (内 501) 青井 幸雄

F T 会理事会を開催

平成6年6月17日(金)に東京校舎でF T会理事会が開催され、30周年記念行事などについて討議され、本行事は平成7年秋に開催されることが決定されました。また各期数名ずつより構成される30周年記念事業実行委員会を早期に発起する予定ですので、会員各位のご協力をお願い致します。

新任教員紹介

昭和38年4月より本職にあられた唯野哲男教授(食品化学工学)が平成6年3月末日をもって勇退され、伝統ある研究室は鈴木功教授が引き継がれました。また食品製造工学研究室には本学大学院博士前期課程を終了された阿部申助手が、さらに学科主任(露木教授)付きとして本学食品工学科をこの3月に卒業された前川由紀子副手が就任され、活躍されています。また昨年8月末日をもって稲崎多佳子副手が退職されました。

【鈴木教授より一言】

平成6年4月から唯野哲男先生の後任として食品化学工学研究室を担当しております。私は昭和39年に理工学部工業化学科を卒業致し、そこで化工熱力学の第一人者である小島和夫先生の教えを受け、その後東京都立大学で平田光穂先生の下で学位を戴きました。専門は分離・精製分野ですが、エンジニアリング企業に28年間在籍し、各種化学プラントの研究・開発に従事してきました。商業生産装置では研究室とは全く異なった発想で成功した例も多く、生産設備にも手作りとは異なった楽しさがあり、その辺を知って貰えたらと思い授業をしております。

阿部
助手前川
副手

露木教授にアカデミア学術大賞

全国日本学士会より

学術、文化、教育など各分野での功績をたたえる社団法人・全国日本学士会主催の「第67回アカデミア大賞」授賞式が本年2月4日、京都市左京区の京大会館で行われ、食品工学科主任、露木英男教授は京大名誉教授・山元竜三郎氏(気象学)と共に学術部門のアカデミア大賞を授賞されました。

授賞対象は『生鮮食品及び加工食品の脂質に関する総合科学的研究』に対してであります。受賞後、同教授は「今回の受賞は大学及び学部当局のご支援の賜物であり、さらに私を支えてくれた研究室スタッフ一同の努力に負う所が多く、心から感謝している。今後は研究と教育の両面で、微力ながら大学と学生のために貢献したい。」と語っています。



就職セミナー開催

本学科主催の就職セミナー(3年次学生対象)が本年2月19日に東京校舎大講堂において開催されました。当日は本学科OBの(株)日本マンパワー人材開発部の野沢敏也氏の講演「今年の採用の傾向と対策」で始まり、その後参加企業43社に対し、延べ500名前後の学生が熱心に企業担当者、OBに質疑を繰り返し、就職に対する関心の高さを窺い知ることができました。

事務局からのお願い

前回の総会において承認されました卒業後25年を経過した会員からの新規会費納入の件に就きまして、本年度より開始します。卒業期によっては会費納入用振込用紙が同封されますので、諸般の事情をご理解の上、ご協力のほど宜しくお願い致します。

(竹永章生)

拓 友 会

◇拓植学科◇

連絡先 経営第2研究室
03-3421-8121 (内 454) 早川 治

拓植学科創立30周年

記念式典と祝賀会

平成6年に拓植学科は創立30周年を迎えた。これを記念して、式典を拓植学科、祝賀会を拓友会が主催することになり、平成6年6月11日(土)麹町の東条会館で学科教育懇談会、拓友会平成6年度総会開催とともに多数の出席者を得て賑々しく開催された。

学科主催の記念式典では宮崎宏教授の司会で、まづ主催者を代表して、学科主任遠藤浩一教授が拓植学科の歴史を紹介、これからの学科について学科名称の変更等を説明する挨拶を行った。来賓を代表して門田定美農獣医学部長からは学部の実状と拓植学



科に関する説明を含んだ祝辞をいただいた。

続いて、学科功労者の表彰に移った。拓植学科に在籍された久木田賢志先生、篠原泰三先生、金沢夏樹先生、佐々木俊郎先生、柳沢豊先生、井上嘉丸先生、石原廉先生、浦野起央先生、岩野秀俊先生、藤原繁雄先生、中村薫先生、隠岐金蔵先生、村井正之先生、斉藤与功先生、佐々木久芳先生の各先生に対し、感謝状と記念品が贈られることとなり、代表して久木田先生に遠藤主任教授より贈られ、久木田先生から祝辞と謝辞を頂いた。なお、当日欠席された

渡辺兵力先生には後日郵送させて頂いた。

5分間の休憩の後、拓友会主催の祝賀会が早川事務局長の司会で始まり、近藤良三郎拓友会会長が、専門部拓殖科の卒業生が中心となって尽力し、拓殖学科が設立された経緯を説明、拓友会会員は今では約8000名になることを紹介、もっと拓友が結束する必要があるという希望が込められた挨拶を行った。

つづいて茂澤某学部校友会会長から拓友会は分会の中でも歴史が古く、拓殖学科設立に尽力したことを評価する祝辞を頂いた。

続いて、昨年度から制定された留学生奨学金の授与が行われ、4年次の愈建初君(中国出身)、3年次の澄凡君(台湾出身)の二人に近藤会長より奨学賞が授与された。



そして、浜口義博副会長の発声により乾杯が行われ、歓談が始まった。

記念祝賀会ということで、在学生のうちから、鶴賀文仁君(平成5年度学生横綱、現在幕下15枚目、八角部屋)、福重二郎君(現在三段目)、千葉雄司君(全日本剣玉入賞、一年次)に招待状を出し、千葉君の妙技に参加者から驚きの声があがっていた。

最後に水野包男拓友会副会長の閉会の辞で拓殖学科創立30周年記念式典・祝賀会を終了した。

(緒方 行廣)



む つ あ い 会

◇短期大学部農学科◇

連絡先 植物生体制御学研究室
0466-81-6241 (内2243) 楠元 守

総会・懇親会を開催

むつあい会の平成6年度総会並びに懇親会は、6月18日15時30分より藤沢校舎で開催された。

総会は、第一会議室で開かれ、富澤寿樹会長の挨拶に続いて議長に野村健作氏(4期)を選出、平成5年度一般経過報告及び事業報告を富樫利男事務局長が行い、承認された。さらに平成5年度会計報告と横関敏治監事の監査報告があり、承認された。

平成6年度予算案及び事業計画案も原案どおり承認され、年度予算額は昨年度より約40万円少ない、1,960,000円で運営されることとなった。

つぎに、役員補選があり、富樫利男事務局長(6期)が副会長に選任された。これは富樫氏が5月末日をもって定年になること、及び楠元守副会長が短大教授として4月1日より就任したので、事務局長をバトンタッチすることになったためである。

総会終了後、会場を食堂棟2階に移して恒例の懇親会を開催。来賓に門田定美農獣医学部長・短期大学部次長を始め、農獣医学部校友会会長茂澤杲氏とともに各分会会長、短期大学部農学科長高橋文次郎教授ほか農学科の諸先生方および会員多数の出席により、盛会であった。

新宿・ホテルセンチュリーハイアットで開催された農獣医学部校友会総会・懇親会には、富澤会長のほか、山本・富樫・吉川副会長・田村顧問・楠元事務局長が出席した。



盛大に開かれた「むつあい会」懇親会

学科の近況

農学科では、3月に42名(43期)が卒業し、4月に73名(女子56名)の新入生を迎えた。2年生は65名で合計138名が在籍している。

近年、入学希望者が極めて多く、成績も高いという状況にあり、上記の通り女子学生が年々増加している。このような新しい時代の流れや学生のニーズに応ずるために、学科名やカリキュラムについての検討がなされている。

現在、学生は生物生産・環境保全の2コースに分かれており、1年生は青山友雄助教授、2年生は鈴木基夫教授が担任をされている。

学科の人事

浅野紘臣助教が「パラコート低抗性ハルジョオンの低抗性機構に関する研究」で、日本大学より博士(農学)の学位を授与された。お祝とともに益々のご活躍をお祈りいたします。

前短期大学部農学科長斎藤忠雄教授は講師として一年間在任されたが、4月より2年間の予定でパラグアイ共和国のJICA農業総合試験場に赴任されたので、その後任として、園芸第二研究室に土岐知久教授が就任された。土岐教授は、千葉県原種農場長から本学科へ採用され、園芸学をご担当されている。土岐教授は、園芸学会賞のほか多数の賞を受賞されており、今後のご活躍が期待される。また植物生体制御学研究室が新設され、6期生の楠元守博士が教授として着任したのでよろしくお願いします。さらに、菅野里枝子さん(副手)が退職し、後任に小田垣直美さん(食品工学科平成6年3月卒)が着任された。



土岐 教授



楠元 教授



小田垣さん

事務局からお願い

本会も会員総数2,627名となりました。住所や勤務先変更、結婚などで姓が変わった方は、お手数でも事務局までご連絡ください。また、近況や同期会等のニュースなどもお送り下さい。(楠元 守)

生活環境学科校友会

◇短期大学部生活環境学科◇

連絡先 環境科学研究室

0466-81-6241 (内2552) 飯塚 統

平成5年度の総会が11月24日(木)19時より、横浜グランドインターコンチネンタルホテルで開催された。総会は会員83名の参加のもと飯塚事務局長の

司会で開会し、茂澤会長のあいさつにつづき、栗原科長のお言葉のあと、議長に事務局長が選出され、議事に入った。平成5年度の事業計画、収支決算報告、監査報告などが行われ、いずれも原案どおり承認された。総会終了後、懇談会が盛大に行なわれ会員間、会員と教員の親睦を一層深めた。〔写真は懇親会の会場〕



＜軽井沢学外研修＞

昨年度、中止された新入生を対象とした軽井沢学外研修が復活した。4月15日から16日の2日間、日本大学軽井沢研修所において実施された。参加者は1年生127名(男子7名)2年生29名(男子3名)であった。この研修では単位履修の方法、学園生活を送るに必要な事項など細部にわたって説明がなされ、



学生間、および学生と教員との交流、親睦の面からも、たいへん有意義な研修であった。

(2) ワープロ技能認定試験(日本情報処理教育普及協会主催) 本学4号館のコンピュータ実習室で実施された。平成4年度10名、平成5年度2級3名、3級26名の29名が合格した。

(3) Lotus 1-2-3 表計算処理技能認定試験(主催は(2)と同じ) 平成4年度3級10名、平成5年度2級1名、3級10名の11名が合格した。

(2)、(3)についての問い合わせは情報処理研究室の青山助教授まで。

＜卒業生の進路状況＞

企業57名、地方公務員3名、自営業1名(男子)、家事手伝い等21名(男子2名) 本学部編入41名(男子10名)、他学部編入1名(男子1名)、専門学校4名 合計128名(男子14名)

＜昇格＞

大川いづみ先生が助教授に昇格された。

＜事務局からのお願い＞

平成6年度の総会は11月16日(水)16時30分からホテルニューオータニで開催されます。会員みなさまふるってご出席下さい。また住所変更などがありましたらお手数でも下記へご連絡下さい。

(後藤 雅弘)

連絡先

住所 252 神奈川県藤沢市亀井野1886
0466-81-6241 (内線) 2552

＜会員数＞

今春、128名の新会員を迎え、会員数は707名になった。また、準会員(在學生)は1年生128名(男子7名)、2年生128名(男子10名)である。

＜学内で実施される各種技能検定試験＞

(1) トレース技能検定試験(財団法人実務技能検定協会主催) 平成4年度2級2名、3級34名、平成5年度1級2名、2級13名、3級61名の合格者を出している。試験委員は飯尾、島田両助教授。問い合わせは飯尾先生まで。

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 分子微生物学研究室
0466-81-6241 (内2196) 中嶋 睦安

第2回総会を開催

応用生物科学交友会は、本年3月に第2回総会を藤沢キャンパス食堂棟で開催しました。

総会は大谷憲司会長のあいさつに始まり、中嶋事



務局長と岩淵正明事務局員から「平成5年度事業報告」と「会計決算報告」、続いて、「平成6年事業計画」と「平成6年度予算案」が提示されました。審議の結果、いずれも承認されました。

総会終了後は懇親会が開かれ、学部執行部、校友



総会後の懇親会で語り合う会員たち

会関係など、多数の来賓の出席を得、また準会員である学科学生も交えて和やかに歓談の一時を過ごしました。

会員数は395名に

今春3月に新たに128名の会員を迎えて、会員数は395名になりました。また、現在準会員(学科学生)数は1年次135名、2年次154名、3年次162名、4年次161名であります。そのうち女子247名で約40%になっております。

学科の近況

教職員関係では、核酸科学を担当されておりました安藤忠彦先生が今年6月2日をもって定年退職されました。学科および大学院設立にご尽力下さいました先生に心から感謝を申し上げます。島由希子副手が本年3月31日をもって退職されました。本年4月1日付けで別府輝彦先生が教授として着任し、生命工学研究室主宰されることになりました。別府先生は東京大学農芸化科で研究・教育で活躍されました。今後、益々のご活躍が期待されます。また、島副手の後を臨時職員の土岐恵子さんが当たっております。

4月1日付けをもって私(佐藤嘉兵)助教授が教授に昇任され、動物細胞学研究室から新設された生体制御科学研究室に移動・主宰することになりました。また、池田和正専任講師は従来所属しておりました蛋白質科学研究室から生体制御科学研究室へ移動されました。

事務局から

前報でもお願いいたしております様に、会員の動向を把握したく転勤による住所変更、あるいは結婚などによる氏名の変更の際には、お手数ですが事務教にご連絡いただきたいと思います。また、今後本交友会活動をより円滑に行なうため終身会費未納の方は、ぜひご協力下さいますようお願い申し上げます。

(佐藤 嘉兵)

支部だより

「秋田県支部」県内政財界で活躍

昨年は冷夏、今年は猛暑と自然の厳しい変化にほんろうされ続けております。そしてさらにこの自然の猛威に加えて、わが国の政治・経済までが激しい変動ぶりをみせている年でもあります。

秋田県は、言うまでもなく農業県であり、農業が県経済の大宗を成すものでありますが、自然の猛威にはなかなか抗し切れず、生産の低下を余儀なくされており、県民の生活にも重大かつ深刻な事態を招いたところであります。加えて政治的には、農業者の意志とは反対の米の自由化がはかられ、また、食糧制度の改変が議論されるなど、農業者は将来どのような生活設計をすればよいのかわからない状態にあると思われます。

このような中において、わが校友は、県内の政界・財界等の各界・各層において、東奔西走の活動を展開しておりまして、県民の生活の向上に有力な支えとなっており、今後ますます強力な支えになるであろうことは等しく認められていることと自負しているところであります。

何はともあれ、賢明の活動を展開するには健康でなければ出来ません。先輩はもとより後輩、そして、これから社会に出られるであろう若い後輩たちの健康を祈念して、活躍されることを切望するものであります。
(支部長 佐藤鉄太郎)

「山梨県支部」10周年で名簿作成

山梨県下の校友の皆様、お変わりありませんか。今年の夏は昨年比して、殊の外暑くて甲府市では39.7度を記録するなど、猛暑が続いたのは、ご承知の通りです。

日本大学農獣医学部校友会山梨県支部は、昭和59年7月に本部校友会総会の承認を受け、昭和60年11月に正式に発足して10年を迎えました。初代支部長小沢寛氏が苦労を重ねて、支部の発足にこぎつけたのですが、63年11月に57歳の若さで、他界したのは残念でなりません。

以後、日本大学100周年の記念行事などを頂点に、数々の行事を行なって来年で10周年です。

10周年の記念事業の一環として、日本大学校友会山梨県支部（田中高雄支部長）の協力を得て、全日本大学山梨校友会名簿を作りました。名簿は既に職域毎に配布しており校友各位の御手許には、配布済みと思われますが、学部校友会山梨県支部（電話0522-51-3256）に残りがありますので、申し込んで下さればお送りします。（1部800円）

10周年の記念総会は準備中ですが、本部校友会より会長、事務局長の他、山梨にゆかりの大学関係者数名が来賓として出席する予定になっております。校友各位の出席をお願いするものです。総会の期日は未定ですが、大成功に終わりますよう役員各位全

員の協力をお願いします。

(支部長 遠藤 晴正)

(追伸 総会は役員改選も行ないたいと思っています。なお、平成6年10月22日午後4時より石和観光温泉ホテルにて役員会を行ないますので役員の全員の参加をお願いします)

「大阪支部」在校生に企業紹介

昨年改選された役員構成で運営にあたってまいります。行事として新年会を開催するに当たり、同日に全日本大阪支部新年互礼会と重なりますので、“農獣医学部新年会と合同”でと、尾崎支部長（全日本大阪副支部長）の押しの強さ(?)にてウェスティング ホテル オオサカで開催しました。農獣医単独の新年会と異なり多人数の会となり、ある一面では成功であったと思いますが、やはり同じ学部の士の集まりでない寂しさはありました。

あらゆる会合に参加するメンバーが固定化され、いつも同じ顔ぶれであり、若い年代の参加者の無い事が残念です。此の事は各支部の共通の悩みではないでしょうか。若い方々の参加出来る魅力ある校友会の在り方を校友各位のお知恵を承りたいと……。

大阪支部として数年前に実施していました校友の経営する企業を在校生に紹介訪問の企画を再度検討する事を重要テーマとして今後の活動とする所存です。

他の活動としては、遊び好きな幹部が考えることですので、ゴルフコンペ、家族旅行を計画中です。近隣支部の校友の皆様の参加を歓迎致します。どうぞご連絡を。
(副支部長 中村 良)

「高知県支部」会員数272名

第6回日本大学農獣医学部高知県支部総会は、昨年の冷夏と打って変わって連日の異常高温、更に、四国の水瓶の早明浦ダムの渇水問題と、改めて我が学部の生物環境保全に注目し、9月10日2時から高知会館（安土の間）において開催しました。

学部からは、農芸化学科の山本教授並びに茂澤校友会会長のご臨席をいただき、山本先生より学部の動向について、茂澤会長より7支部の状況報告後、事務局より提出された4議案の承認を得た。



当日の高知県支部会員21名中、初参加2名も加わり賑やかな懇親の場となりました。当支部では、毎年学科を定めその学科を重点に集めて先生との交流、会員相互の輪を広げてゆく事としており、7年度は、角笛会（獣医学科）の予定です。

発足以来理事として、当支部にお力添えを頂いて

おりました光内康弘（農化58年卒高知医科大学P I 研究センター勤務 写真3列目左より4人目）は6年10月に渡米し知識を深めるとの事、支部としては寂しくなりますが、渡米先での益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

高知県支部会員総数272名、会長 長崎収夫（獣医31年卒）副会長 中西正昭（農化36年卒）会計 松村春樹（水産51年卒）事務局 中西孝彦（林学44年卒）（支部長 長崎 収夫）

「台湾支部」30名が参加、第2次会員大会

台湾支部は1993年（平成5年）7月10日東京新宿京王プラザホテルにおいて日本大学農獣医学部校友会大会の決議により承認を受け当時前任支部長葉澤氏が参加したが大会直後急逝しました。

これにより1994年元月9日台湾支部役員会を開き、支部長の選挙を行った結果、林義謙が支部長に選出された。また次回の大会には日本大学農獣医学部校友会会長茂澤杲氏と事務局長木村貞司氏のご出席を邀請することに決議して懇親会に移った。

1994年5月21日午前10時、台北市来々大飯店において本支部第二次会員大会を開催し、約30名の会員が参加した。貴賓としては母校農獣医学部校友会々長茂澤杲氏と事務局長木村貞司氏の御両人様が遠方から、しかも御多忙のところ御光臨の榮譽を賜り感謝と敬意を表するのであります。

大会は林義謙支部長と張武雄副会長の挨拶につづき茂澤会長と木村事務局長の挨拶があり、日大校友会は宏大かつ強力な組織のもとに活動していることを強調し、母校の建学理念の現実化に邁進している等、非常に力強い挨拶があり、出席者一同に感銘を

与えた。

引続き懇親会を開き、茂澤会長と木村事務局長を取り囲み親睦を深めた。最後に校歌を斉唱し、日本大学及校友会のますます発展を祈念しつつ来年の再



会を期し散会した。

1994年7月9日午後3時、東京新宿センチュリーハイアットホテルにおいて舉行される母校校友会の御案内を受け林義謙支部長が参加した。会場は満場の出席者で実に盛大かつ厳粛で和気霽靄な気分が進み、茂澤会長主持のもので提案悉く可決しました。私も台湾支部の活動及現況の報告と今後の支部に対する御支援と御交誼を要望しました。

また校友会茂澤会長から私に、身に余る記念品を授けられ、一生の記念として重宝させていただきました。次にこの会を通じて校友諸先輩と親しく語り合い一層の友誼を深められましたこと、心から深謝致します。

今後とも更に密接な連携をし親睦と発展の向上を計り、相互一体となって母校日本大学に寄与し校友会の発展と地域社会に貢献しその目的達成に向かう所存でございます。

最後に、各校友のご壮健とご活躍をお祈り致します。（支部長 林 義謙）

日本大学農獣医学部校友会役員・事務局名簿

名誉会長	門 田 定 美(水産)	農獣医学部長	吉 川 宏 一(農工)	五光建設(株)
会 長	茂 澤 杲(農化)	(株)モザワ商店	鈴 木 昌 二(農工)	世田谷区議会
副会長	富 澤 寿 樹(短農)	(有)マルナカ	野 田 義 人(食工)	野田通信(株)
“	日比野 次 郎(獣医)	獣医医院	中 村 清 一(食工)	山崎製パン(株)
“	山 下 金 義(水産)	観音崎自然博物館	青 井 幸 雄(食工)	日本大学農獣医学部
理 事	西鳥羽 曙(農学)	(株)博友社	近 藤 良三郎(拓植)	
“	浅 野 明(農学)		水 野 包 男(拓植)	
“	坪 木 良 雄(農学)	日本大学農獣医学部	浜 口 喜 博(拓植)	
“	江 刺 琢 磨(農化)	カセイ食品(株)	山 本 正 義(短農)	藤沢市農業協同組合
“	木 嶋 弘 倫(農化)	豊栄産業(株)	楠 元 守(短農)	日本大学短期大学部
“	若 尾 良 知(獣医)		岡 崎 祥 子(短生)	住友銀行
“	吉 田 仁 夫(獣医)	日本大学農獣医学部	本 田 智 子(短生)	日本大学法学部
“	木 村 栄 一(畜産)	木村農産商事(株)	飯 塚 統(短生)	日本大学短期大学部
“	平 田 芳 弘(畜産)	神奈川県家畜畜産物衛生指導協会	大 谷 憲 司(応生)	
“	小 牧 弘(畜産)	日本大学農獣医学部	中 村 親 民(応生)	
“	三 木 敏 夫(食経)	(株)マミーチェン	津久井 通(応生)	東京大学大学院
“	村 山 進(食経)	(株)コステムヨシダ	監 事 山 根 勝 次(食経)	日本大学農獣医学部
“	上 野 恒 雄(食経)	日本大学農獣医学部	“ 西 山 栄 一(農学)	種藤商店
“	鹿 野 忠(林学)		“ 野 田 郁 夫(林学)	昭和エーテル(株)
“	大 川 富士雄(林学)	日本大学本部	事務局長 木 村 貞 司(畜産)	日本大学農獣医学部
“	濱 本 和 敏(林学)	日本大学農獣医学部	局 員 本 江 一 郎(林学)	日本大学農獣医学部
“	日 野 演 彦(水産)	大田区役所	“ 世良田 和 寛(農工)	日本大学農獣医学部
“	奥 本 直 人(水産)		“ 丹 羽 美 次(畜産)	日本大学農獣医学部
“	村 田 昇(農工)	中央開発(株)	“ 千 野 誠(食工)	日本大学農獣医学部

「山形県支部」 出身者は600人

山形県には、日本大学農獣医学部出身者は600名を数え、それぞれが一生懸命活躍しております。校友会活動については、一部の学科で行われておりますが、学部全体では行われておりませんでした。

“農獣医学部一同が集まっの校友会組織を”と言うことで発起人会を組織し、山形県在住者600名に案内を差上げ、1992年2月29日、上山温泉ニュー有馬館で開催したところ、54名の会員が参加し校友会を発足させました。

席上、会長に田中恒一、(農23年卒) 副会長に渡辺欽一(獣25年卒) 同・桜井麻男(畜33年卒) 幹事は各学科から選出し、事務局を、日本大学附属高校におき、担当者を、池田卓郎(農化48年卒) 黒沼美秋(農48年卒) にお願ひし、組織作りを行いました。

その後、1993年に東根温泉で、1994年に上山温泉で、毎年1回総会を行い、親睦を深めているところです。(幹事長 安達 勇)



「神奈川県支部農獣医部会」10月15日に総会

今年は事務局に移動がありました。農獣医学部庶務課勤務の富樫利男氏(短農32年卒)が本年5月に定年退職をされたため、長い年月お願いしていた事務局長を退かれ、相談役になられました。後任として畜産学科教授中西五十氏(畜産33年卒)が事務局長に就任致しました。

平成5年度の部会の総会・懇親会は、前回の15周年記念会のあとのためか、会員の出席が振わず、70名にすぎませんでした。今年は若い会員を如何にして動員出来るかを主要テーマとして、幹事・事務局一丸となって総会の準備を進めております。若い会員は今年卒業した会員だけでなく、卒業後3年間は会費を半額にして、新会員の負担の軽減を図ります。是非とも下記の総会・懇親会にはご友人お誘い合せの上多数ご出席をお待ちしております。

(部会長 佐々木弘康)

記

1. 日時 10月15日(土) 17時より
2. 会場 藤沢グランドホテル
電話 0466-22-1311
3. 会費 一般会員 10,000円
平成6・5・4年卒、5,000円

校友通信コーナー

ミニレク基地づくり

「岩清水去年のままのカケ茶碗」一読みびと知らずー 林を育てる上で最も大切で最もハードな下刈の作業。炎天下でのスズメバチやマムシとの遭遇も何のその、ただひたすら下草を刈り続けるその“こころ”は、幼令期のスックと林立する樹々、そしてうっそうと生い繁る雄大な壮年期の林を夢み、育てるところにある。そんな厳しさの中にも、一服のひと時の岩清水の美味しさは、筆舌に尽くしがたい恵みの水、まさに“生”の喜びを感じる時である。

一昨年そんな岩清水を引いて、池をつくりニジマスを放流し、小さな憩いの場をつくった。ちょうど林道の開設と重なり、絶好のレク基地となった。次第に友人が集い初め、またたく間に話がはずみ、ある人は釣って来たイワナを放し、ある機械屋さんは発電機・小型ブル等を持ち込み整地にかかり。また自動枝払機のテストで枯枝を打ち落とし、あっという間に誰もがうらやむ程のミニレク基地と化した。フランス料理店の店主は、残ったフランスパンを魚のエサにと持ち込んでせせと与える仕末。週末の

昼はそれぞれの持ち寄りで“乾杯”ミニレク基地は賑わう。

お役所さんがつくってくれたスケールの大きいレク基地もそれなりに良いが、手塩にかけて育てた林の中でのレクリエーションは、楽しみも喜びも格別の感がある。つくり育てる楽しみと嬉しさは、物質的にも精神的にも大きく、まさに“生きている”が実感出来る。ほんとうにいいもんですよ。校友にも利用できるミニレク基地づくりを始めましょう。

ところで皆さん!!フランスパンで育ったニジマスのムニエルはい・か・が?

(石沢 良一 林学科第21期生、昭47年卒

〒990山形市上宝沢 136



発行所

日本大学農獣医学部校友会

(東京校舎) 〒154 東京都世田谷区下馬3の34の1

電話 03-3421-8121 内線 354

FAX 03-3421-4744

(藤沢校舎) 〒252 神奈川県藤沢市亀井野1866

電話 0466-81-6241

編集・発行 会報編集委員会

委員長 富澤 寿樹

印刷所 東京商工株式会社